

礼拝メッセージフィードバック

＜今日の聖書箇所は…＞

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をさがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④互いの必要のために祈りましょう。

ディーヴォ ガイド



2023.4.24-30

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い（なるべく短く）
- ④預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

8:1 その後のことである。ダビデはペリシテ人を討って、これを屈服させた。ダビデはメテグ・ハ・アンマをペリシテ人の手から奪い取った。

8:2 彼はモアブを討ち、彼らを地面に伏させ、測り縄で彼らを測った。縄二本で測った者を殺し、縄一本で測った者を生かしておいた。モアブはダビデのしもべとなり、貢ぎ物を納める者となった。

8:3 ツォバの王、レホブの子ハダドエゼルが、ユーフラテス川流域にその勢力を回復しようとして出て行ったとき、ダビデは彼を討った。

8:4 ダビデは、彼から騎兵千七百、歩兵二万を取った。ダビデは、そのすべての戦車の馬の足の筋を切った。ただし、そのうち戦車百台分の馬は残した。

8:5 ダマスコのアラムがツォバの王ハダドエゼルの助けに來たが、ダビデはアラムの二万二千人を討った。

8:6 ダビデはダマスコのアラムに守備隊を置いた。アラムはダビデのしもべとなり、貢ぎ物を納める者となった。【主】は、ダビデの行く先々で、彼に勝利を与えられた。

8:7 ダビデは、ハダドエゼルの家來たちが持っていた金の丸い小盾を奪い取り、エルサレムに持ち帰った。

8:8 またダビデ王は、ハダドエゼルの町ベタフとペロタイから、非常に多くの青銅を奪い取った。

8:9 ハマテの王トイは、ダビデがハダドエゼルの全軍勢を打ち破ったことを聞いた。

8:10 トイは、息子ヨラムをダビデ王のもとに遣わし、安否を尋ね、ダビデがハダドエゼル

と戦ってこれを打ち破ったことについて、祝福のことばを述べた。ハダドエゼルがトイにしばしば戦いを挑んでいたからである。ヨラムは銀の器、金の器、青銅の器を携えていた。

8:11 ダビデ王は、それらもまた、【主】のために聖別した。彼が征服したすべての国々から取って聖別した銀や金、

8:12 すなわち、アラム、モアブ、アンモン人、ペリシテ人、アマレクから取った物、およびツォバの王、レホブの子ハダドエゼルからの分捕り物と同様にした。

8:13 ダビデが塩の谷でアラム人一万八千人を討って帰って來たとき、彼は名をあげた。

8:14 彼はエドムに守備隊を、エドム全土に守備隊を置いた。こうして、全エドムはダビデのしもべとなった。【主】は、ダビデの行く先々で、彼に勝利を与えられた。

8:15 ダビデは全イスラエルを治めた。ダビデはその民のすべてにさばきと正義を行った。

8:16 ツェルヤの子ヨアブは軍団長、アヒルデの子ヨシャファテは史官、

8:17 アヒトブの子ツァドクとエブヤタルの子アヒメレクは祭司、セラヤは書記、

8:18 エホヤダの子ベナヤはクレタ人とペリテ人の上に立つ者、ダビデの息子たちは祭司であつた。

旧約時代においては戦いを挑んで來るものとは戦わなければなりません。ダビデは連戦連勝でしたが、その秘訣が明記されています。「主は...彼に勝利を与えられた。」ということです。

また講和を求めるものとは平和な関係を築きました。ただし、その中でも主への忠誠は変わらず、

貢献物を聖別して主のものとししました。

私たちの勝利や成功も主が与えてくださったのだと、改めて心しましょう。それゆえに主に頼ることもそうですが、主への忠誠をささげものなどで表しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



25日 火曜

Ⅱ サムエル



9:1 ダビデは言った。「サウルの家の者で、まだ生き残っている人はいないか。私はヨナタンのゆえに、その人に真実を尽くしたい。」

9:2 サウルの家にツィバという名のしもべがいて、ダビデのところに呼び出された。王は彼に言った。「あなたがツィバか。」彼は言った。「はい、あなた様のしもべです。」

9:3 王は言った。「サウルの家の者で、まだ、だれかいないか。私はその人に神の恵みを施そう。」ツィバは王に言った。「まだ、ヨナタンの息子で足の不自由な方がおられます。」

9:4 王は彼に言った。「その人は、どこにいるのか。」ツィバは王に言った。「お聞きください。ロ・デバルのアンミエルの子マキルの家におられます。」

9:5 ダビデ王は人を送って、ロ・デバルのアンミエルの子マキルの家から彼を連れて来させた。

9:6 サウルの子ヨナタンの子メフィボシェテは、ダビデのところにきて、ひれ伏して礼をした。ダビデは言った。「メフィボシェテか。」彼は言った。「はい、あなた様のしもべです。」

9:7 ダビデは言った。「恐れることはない。私は、あなたの父ヨナタンのゆえに、あなたに恵みを施そう。あなたの祖父サウルの地所をすべてあなたに返そう。あなたはいつも私の食卓で食事をすることになる。」

9:8 彼は礼をして言った。「いったい、このしもべは何なのでしょう。あなた様が、この死んだ犬のような私を顧みてくださると

は。」

9:9 王はサウルのしもベツィバを呼び寄せて言った。「サウルと、その一家の所有になっていた物をみな、私はあなたの主人の息子に与えた。」

9:10 あなたも、あなたの息子たちも、あなたの召使いたちも、彼のために土地を耕し、作物を持って来て、それがあなたの主人の息子のパン、また食物となる。あなたの主人の息子メフィボシェテは、いつも私の食卓で食事することになる。」ツィバには息子が十五人と召使いが二十人いた。

9:11 ツィバは王に言った。「わが主、王がこのしもべに申しつけられたとおりに、このしもべはいたします。」メフィボシェテは王の息子たちの一人のように、王の食卓で食事することになった。

9:12 メフィボシェテには、ミカという名の小さな子がいた。ツィバの家に住む者はみな、メフィボシェテのしもべとなった。

9:13 メフィボシェテはエルサレムに住み、いつも王の食卓で食事をした。彼は両足がともに萎えていた。

ダビデはヨナタンとの約束のゆえに、そのこメフィボシェテを優遇しました。その扱いが慈愛に満ちたものなので、ダビデの篤い思いわかります。メフィボシェテはダビデを殺そうとしたサウル家の子孫ですから、古代では殺されても普通でした。しかしただ王の愛によって、回復し、まるで王子のような扱いを受けたのです。

これはまさに救われた私たちを思い起こさせます。滅ぼされて当然の者が、救われて王子のように神の子とされたのです。私たちもこのような救いに感謝し、王宮のように主とともにある生活を楽しみましょう。そしてメフィボシェテのように、

あくまでも謙遜になって、主の前に出ましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



26日 水曜

Ⅱ サムエル



10:1 この後、アンモン人の王が死に、その子ハヌンが代わって王となった。

10:2 ダビデは、「ナハシュの子ハヌンに真実を尽くそう。彼の父が私に真実を尽くしてくれたように」と言った。そして家来たちを通して彼の父の悔やみを言うために、ダビデは彼らを遣わした。ダビデの家来たちがアンモン人の地に着いたとき、

10:3 アンモン人の首長たちは、主君ハヌンに言った。「ダビデがあなたのもとにお悔やみの使者を遣わしたからといって、彼が父君を敬っているとお考えですか。この町を調べ、探り、くつがえすために、ダビデはあなたのところに家来を遣わしたのではないでしょうか。」

10:4 そこでハヌンはダビデの家来たちを捕らえ、ひげを半分割り落とし、衣を半分に切つて尻のあたりまでにして送り返した。

10:5 ダビデにこのことが告げられたので、ダビデは彼らを迎えに人を遣わした。この人たちが非常に恥じていたからである。王は言った。「ひげが伸びるまでエリコにとどまり、それから帰って来なさい。」

10:6 アンモン人は、自分たちがダビデに憎まれるようになったのを見てとった。そこでアンモン人は人を遣わして、ベテ・レホブのアラム人とツォバのアラム人の歩兵二万、マアカの王の兵士一千、トブの兵士一万二千を雇った。

10:7 ダビデはこれを聞き、ヨアブと勇士たちの全軍を送った。

10:8 アンモン人は出て来て、門の入り口で戦いの備えをした。ツォバとレホブのアラム

人、およびトブとマアカの人たちは、彼らだけで野にいた。

10:9 ヨアブは、自分の前とうしろに戦いの前線があるのを見て、イスラエルの精鋭全員からさらに兵を選び、アラム人に立ち向かう陣備えをし、

10:10 残りの兵を兄弟アビシャイの手に託して、アンモン人に立ち向かう陣備えをした。

10:11 ヨアブは言った。「もしアラム人が私より強かったら、あなたが私を救ってくれ。もしアンモン人があなたより強かったら、私があなたを救いに行こう。」

10:12 強くあれ。われわれの民のため、われわれの神の町々のために、奮い立とう。

【主】が、御目にかなうことをされるのだ。」

10:13 ヨアブと彼とともにいた兵たちがアラム人と戦おうとして近づいたとき、アラム人は彼の前から逃げた。

10:14 アンモン人はアラム人が逃げるのを見ると、アビシャイの前から逃げて町に入った。そこでヨアブはアンモン人を討つのをやめて、エルサレムに帰った。

10:15 アラム人は、自分たちがイスラエルに打ち負かされたのを見て、集結した。

10:16 ハダドエゼルは人を遣わして、ユーフラテス川の向こうのアラム人に出て来させた。彼らは、ヘラムにやって来た。ハダドエゼルの軍の長ショバクが彼らを率いていた。

10:17 このことが報告されると、ダビデはイスラエル全軍を集結させ、ヨルダン川を渡って、ヘラムへ進んだ。アラム人はダビデと対決する備えをし、彼と戦った。

10:18 アラム人はイスラエルの前から逃げた。

ダビデはアラムの戦車兵七百と騎兵四万を殺し、軍の長ショバクも討ったので、彼はそこで死んだ。

10:19 ハダドエゼルに仕えていた王たちはみな、彼らがイスラエルに打ち負かされたのを見て、イスラエルと和を講じ、イスラエルに仕えるようになった。アラム人は恐れて、再びアンモン人を助けようとはしなかった。

メフィボシエテに対して真実を尽くしたダビデは、さらにハヌンに真実を表しました。しかしハヌンはこれを仇で返したのです。メフィボシエテとの対比で考えると、神様の真実に対してどのようにするかが問われているようです。

主の御心に対して警戒したり、主を侮ったりすることは愚かなことであると気づくことができるでしょう。そのようなあり方を変えないでいると、このハヌンのようにになってしまいますから、私たちは主に頼り、主を敬うことを続けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



27日 木曜

Ⅱ サムエル



11:1 年が改まり、王たちが出陣する時期になった。ダビデは、ヨアブと自分の家来たちとイスラエル全軍を送った。彼らはアンモン人を打ち負かし、ラバを包囲した。しかし、ダビデはエルサレムにとどまっていた。

11:2 ある夕暮れ時、ダビデが床から起き上がり、王宮の屋上を歩いていると、一人の女が、からだを洗っているのが屋上から見えた。その女は非常に美しかった。

11:3 ダビデは人を送ってその女について調べさせたところ、「あれはヒッタイト人ウリヤの妻で、エリアムの娘バテ・シェバです」との報告を受けた。

11:4 ダビデは使いの者を送って、その女を召し入れた。彼女が彼のところに来たので、彼は彼女と寝た——彼女は月のものの汚れから身を聖別していた——それから彼女は自分の家に帰った。

11:5 女は身ごもった。それで彼女はダビデに人を送って告げた。「私は子を宿しました。」

11:6 ダビデはヨアブのところに人を遣わして、「ヒッタイト人ウリヤを私のところに送れ」と言った。ヨアブはウリヤをダビデのところに送った。

11:7 ウリヤがやって来ると、ダビデは、ヨアブは無事でいるか、また兵たちは無事か、さらに戦いはうまくいっているかと尋ねた。

11:8 ダビデはウリヤに言った。「家に帰って、足を洗いなさい。」ウリヤが王宮から出て行くと、王からの贈り物が彼の後に続いた。

11:9 しかしウリヤは、王宮の門のあたりで、自分の主君の家来たちみなと一緒に眠り、自

分の家に帰らなかった。

11:10 ダビデに「ウリヤは自分の家に帰らなかった」という知らせがあった。ダビデはウリヤに言った。「あなたは遠征して来たのではないか。なぜ、自分の家に帰らなかったのか。」

11:11 ウリヤはダビデに言った。「神の箱も、イスラエルも、ユダも仮庵に住み、私の主人ヨアブも、私の主人の家来たちも戦場で野営しています。それなのに、私が家に帰り、食べたり飲んだりして、妻と寝ることができのでしょうか。あなたの前に、あなたのたましいの前に誓います。私は決してそのようなことをいたしません。」

11:12 ダビデはウリヤに言った。「今日もここにとどまるがよい。明日になったら、あなたを送り出そう。」ウリヤはその日と翌日、エルサレムにとどまることになった。

11:13 ダビデは彼を招いた。彼はダビデの前で食べて飲んだ。ダビデは彼を酔わせた。夕方、ウリヤは出て行って、自分の主君の家来たちと一緒に自分の寢床で寝た。しかし、自分の家には下って行かなかった。

ダビデは部下たちが命がけて戦っている間に、王宮で安逸をむさぼるようになっていました。幾多の苦勞によってそのような立場になったのですが、多くの人がそうであるようにチャレンジが必要なくなったときから誘惑に弱くなったのでした。「自分はこれでよし」と思うことは危険が伴います。

ダビデは罪を犯しましたが、罪そのものよりもその後の結果を恥としました。それで画策をしたのです。主がその画策を成功させるはずがありません。私たちは罪そのものを恥として、主の前に認める者でありましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



28日 金曜

Ⅱ サムエル



11:14 朝になって、ダビデはヨアブに手紙を書き、それをウリヤに託して送った。

11:15 彼は、その手紙に次のように書いた。「ウリヤを激戦の真っ正面に出し、彼を残してあなたがたは退き、彼が討たれて死ぬようにせよ。」

11:16 ヨアブは町を見張っていて、その町の力ある者たちがいると分かっている場所に、ウリヤを配置した。

11:17 その町の者が出て来てヨアブと戦った。兵のうちダビデの家来たちが倒れ、ヒッタイト人ウリヤも死んだ。

11:18 ヨアブは人を遣わして、戦いの一部始終をダビデに報告した。

11:19 そのとき、ヨアブは使者に命じて言った。「戦いの一部始終を王に報告し終えたとき、

11:20 もし王が憤って、おまえに、『どうして、おまえたちはそんなに町に近づいて戦ったのか。城壁の上から彼らが射かけてくるのを知らなかったのか。』

11:21 エルベシエテの子アビメレクを打ち殺したのは、だれであったか。一人の女が城壁の上からひき臼の上石を投げつけて、テベツで彼を殺したのではなかったか。どうして、そんなに城壁に近づいたのか』と言われたら、『あなたの家来、ヒッタイト人ウリヤも死にました』と言いなさい。」

11:22 使者は出かけて行き、ダビデのところに来て、ヨアブの伝言をすべて伝えた。

11:23 使者はダビデに言った。「敵は私たちより優勢で、私たちに向かって野に出て来ましたが、私たちは門の入り口まで彼らを攻め

て行きました。

11:24 城壁の上から射手たちがあなたの家来たちに矢を射かけ、王の家来たちが死に、あなたの家来、ヒッタイト人ウリヤも死にました。」

11:25 ダビデは使者に言った。「あなたはヨアブにこう言いなさい。『このことに心を痛めるな。剣はこちらの者も、あちらの者も食い尽くすものだ。あなたは町をいっそう激しく攻撃し、それを全滅させよ。』あなたは彼を力づけなさい。」

11:26 ウリヤの妻は、自分の夫ウリヤが死んだことを聞き、自分の主人のために悼み悲しんだ。

11:27 喪が明けると、ダビデは人を遣わして、彼女を自分の家に迎え入れた。彼女は彼の妻となり、彼のために息子を産んだ。しかし、ダビデが行ったことは【主】のみこころを損なった。

ダビデの王としてのすばらしさや苦難の中での信仰は、イエス様のひな型ではありませんし、また私たちクリスチャンの模範や慰めでもあります。しかしそれはあくまでもひな型であって、救い主そのものではありません。ですから聖書はダビデの罪や失敗をも隠すことなく記しているのです。それは聖なる神以外には本当の救い主とはならないことを表すとともに、同じように罪に弱い私たちへの教訓でもあるのです。

ダビデは自分の忠実な部下であるウリヤの妻バテシェバと罪を犯し、彼女が妊娠したことを知り、それを隠そうとしました。しかしどれもうまくいかず、とうとうウリヤを戦死させるように画策しました。

罪を悔い改めずにいると、さらに大きな罪を犯すようになることの実例です。王にとっては部下を激戦地に送ることは珍しくはないし、当然戦死

もありうることです。しかし主は見ておられ、「主のみこころをそこなった」とあるように、主はその罪に報いられるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



12:1 【主】はナタンをダビデのところに遣わされた。ナタンはダビデのところに来て言った。「ある町に二人の人がいました。一人は富んでいる人、もう一人は貧しい人でした。

12:2 富んでいる人には、とても多くの羊と牛の群れがいましたが、

12:3 貧しい人は、自分で買ってきて育てた一匹の小さな雌の子羊のほかは、何も持っていませんでした。子羊は彼とその子どもたちと一緒に暮らし、彼と同じ食べ物を食べ、同じ杯から飲み、彼の懷で休み、まるで彼の娘のようでした。

12:4 一人の旅人が、富んでいる人のところにやって来ました。彼は、自分のところに来た旅人のために自分の羊や牛の群れから取って調理するのを惜しみ、貧しい人の雌の子羊を奪い取り、自分のところに来た人のために調理しました。」

12:5 ダビデは、その男に対して激しい怒りを燃やし、ナタンに言った。「【主】は生きておられる。そんなことをした男は死に値する。12:6 その男は、あわれみの心もなく、そんなことをしたのだから、その雌の子羊を四倍にして償わなければならない。」

12:7 ナタンはダビデに言った。「あなたがその男です。イスラエルの神、【主】はこう言われます。『わたしはあなたに油を注いで、イスラエルの王とした。また、わたしはサウルの手からあなたを救い出した。』

12:8 さらに、あなたの主君の家を与え、あなたの主君の妻たちをあなたの懷に渡し、イスラエルとユダの家も与えた。それでも少ない

というのなら、あなたにもっと多くのものを増し加えたであろう。

12:9 どうして、あなたは【主】のことはを蔑み、わたしの目に悪であることを行っただのか。あなたはヒッタイト人ウリヤを剣で殺し、彼の妻を奪って自分の妻にした。あなたが彼をアンモン人の剣で殺したのだ。

12:10 今や剣は、とこしえまでもあなたの家から離れない。あなたがわたしを蔑み、ヒッタイト人ウリヤの妻を奪い取り、自分の妻にしたからだ。』

12:11 【主】はこう言われる。『見よ、わたしはあなたの家の中から、あなたの上にわざわいを引き起こす。あなたの妻たちをあなたの目の前で奪い取り、あなたの隣人に与える。彼は、白昼公然と、あなたの妻たちと寝るようになる。』

12:12 あなたは隠れてそれをしたが、わたしはイスラエル全体の前で、白日のもとで、このことを行う。』」

12:13 ダビデはナタンに言った。「私は【主】の前に罪ある者です。」ナタンはダビデに言った。「【主】も、あなたの罪を取り去ってください。あなたは死なない。12:14 しかし、あなたはこのことによって、【主】の敵に大いに侮りの心を起こさせたので、あなたに生まれる息子は必ず死ぬ。」

12:15 ナタンは自分の家へ帰って行った。【主】は、ウリヤの妻がダビデに産んだ子を打たれたので、その子は病気になる。

誰も知らなくても主はダビデの罪をご存知です。から、それを放っておくことは有り得ません。主は預言者ナタンを遣わして、ダビデに自分の罪を

気づくように導きました。

ダビデは様々なことを言ったかも知れませんが、聖書は「私は主に対して罪を犯した」ということばだけを記しています。悔い改めとは、それに付随する様々な現象が条件なのではなく（例えば号泣したとか、大人数の前で告白したなど）、主の前で素直に罪を認めただろうかが大切なのです。

ダビデはそれによって王であることや命は「見過ご」されましたが、この後多くの困難を抱えることになりました。罪は悔い改めによって主からの罰は免れますが、しかしその報いは身に負う事になります。しかし主はその困難をも、憐れみのゆえに支えてくださいます。悔い改めに遅いことはありません。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



12:16 ダビデはその子のために神に願い求めた。ダビデは断食をして引きこもり、一晩中、地に伏していた。

12:17 彼の家の長老たちは彼のそばに立って、彼を地から起こそうとしたが、ダビデは起きようとせず、彼らと一緒に食事をとろうともしなかった。

12:18 七日目にその子は死んだ。ダビデの家来たちは、その子が死んだことをダビデに告げるのを恐れた。彼らは、「聞きなさい。王はあの子が生きているとき、われわれが話しても、言うことを聞いてくださらなかった。どうして、あの子どもが死んだことを王に言えるだろうか。王は何か悪いことをされるかもしれない」と言ったのである。

12:19 ダビデは、家来たちが小声で話し合っているのを見て、子が死んだことを悟った。ダビデは家来たちに言った。「あの子は死んだのか。」彼らは言った。「亡くなられました。」

12:20 ダビデは地から起き上がり、からだを洗って身に油を塗り、衣を替えて【主】の家に入り、礼拝をした。そして自分の家に帰り、食事の用意をさせて食事をとった。

12:21 家来たちは彼に言った。「あなたのなさったこのことは、いったいどういうことですか。お子様が生きておられるときは断食をして泣かれたのに、お子様が亡くされると、起き上がり食事をされるとは。」

12:22 ダビデは言った。「あの子がまだ生きていたときに私が断食をして泣いたのは、もしかすると【主】が私をあわれんでくださり、あの子が生きるかもしれない、と思ったから

だ。

12:23 しかし今、あの子は死んでしまった。私はなぜ、断食をしなければならないのか。あの子をもう一度、呼び戻せるだろうか。私があの子のところに行くことはあっても、あの子は私のところに戻っては来ない。」

12:24 ダビデは妻バテ・シェバを慰め、彼女のところに入り、彼女と寝た。彼女は男の子を産み、彼はその名をソロモンと名づけた。【主】は彼を愛されたので、

12:25 預言者ナタンを遣わし、【主】のために、その名をエディデヤと名づけさせた。

12:26 さて、ヨアブはアンモン人のラバと戦い、この王の町を攻め取った。

12:27 ヨアブはダビデに使者を遣わして言った。「私はラバと戦って、水の町を攻め取りました。」

12:28 今、兵の残りの者たちを集めて、この町に対して陣を敷き、あなたがこれを攻め取ってください。私がこの町を取り、この町に私の名がつけられるといけませんから。」

12:29 ダビデはすべての兵を集めてラバに進んで行き、これと戦って攻め取った。

12:30 彼は、彼らの王の冠をその頭から奪い取った。その重さは金一タラントで、宝石がはめ込まれていた。その冠はダビデの頭に置かれた。彼は、その町から非常に多くの分捕り物を持ち去った。

12:31 彼はその町にいた人々を連れ出して、石のこぎりや、鉄のつるはし、鉄の斧を使う仕事に就かせ、また、連れ行なって、れんが作りの仕事をさせた。ダビデはアンモン人のすべての町に対して、いつもこのようにしていた。ダビデとすべての兵はエル

サレムに帰った。

バテ・シェバとの姦通によって生まれた子どもが死の病となり、ダビデは「断食をして泣」いたようで、その痛みが相当であったことがわかります。彼は罪の報いを受けなければならないことを覚悟していましたから、主のみこころに委ねたのでしょう。そして最後は、主のみこころに委ねて悲しみから立ち上がりました。

この後ダビデは罪によって、その子どもたちから多くの苦難を受けることになり、彼らもまた反逆のゆえに死にます。ダビデの罪によって子どもたちが死ぬのも納得がいかない気はしますが、しかし滅びを招いたのは彼ら自身の罪でもあります。全能の主は人間の罪や弱さをも用いて、そのみわざをなされる方です。

バテ・シェバとの間の子どもが死ぬのも釈然としませんが、そこには人間に知ることのできない主のご判断があったのだと思われます。ただ、ダビデは「私はあの子のところに行く」と言っていますから、永遠の命の希望は失われていません。

この世には生まれてすぐに召される子どももありますが、そこにも人の考えの及ばない深い主のお考えがあるので、イエス様は永遠の命のために十字架に架されましたが、それは地上に生きた時間にはよらないのです。

ダビデは断食しながら、以上のように様々なことを主に訴え、悔い改め、また教えられたでしょう。たとえ自分の罪が原因であっても、主はその人が回復できるように、希望を与えてくださる方です。

- ①神のみこころは？ ②どんな思いになりましたか？ ③生き方にどう適用しますか？ ④この世にあって何を実践しますか？